

合併後の北見市を光り輝かせる「9つの提言」

— 北見観光戦略会議提言書 —

平成20年8月
北見観光戦略会議

I. これまでの経過

1. 北見観光戦略会議の立ち上げ

平成18年3月、北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併し、新「北見市」が誕生しました。

北見市は、合併のメリットを活かした観光の底上げを図るとともに、観光を地域づくりの起爆剤とすべく、平成19年度から、23の観光振興事業を盛り込んだ「新北見型観光推進プロジェクト」を推進しています。このプロジェクトの一つに、「北見観光戦略会議」があり、私たちは、平成19年7月、北見市長の委嘱を受け、北見観光の目指すべき方向性や具体的な観光振興施策について助言すべく、議論を重ねてきました。

戦略会議の委員は5名で、4名が市外の観光分野の事業者・学識者、1名は地域の基幹産業である農業関係団体の代表者という構成です。こうしたメンバー構成となったことは、地域に住んでいては気づきづらい、北見の魅力や可能性、潜在的な力などを、外部者（よそ者）や専門的な視点から見いだしてほしいとの主旨によるものです。

●北見観光戦略会議委員

座長 石森 秀三（北海道大学観光学高等研究センター長）
大西 雅之（株式会社阿寒グランドホテル代表取締役社長）
高橋 威男（株式会社 JTB 北海道代表取締役社長）
林 美香子（フリーキャスター・フードジャーナリスト）
加藤 孝幸（きたみらい農業協同組合代表理事組合長）

【オブザーバー】

黒部 哲哉（北見観光協会会長）
岩崎 新一（端野町観光物産協会会長）
大江 友広（おんねゆ温泉観光協会会長）
佐藤 栄（常呂町観光協会会長）
桑島 繁行（オホーツク圏観光連盟会長）
高桑 康文（常呂漁業協同組合代表理事組合長）
大場 稔康（北見文化連盟会計監査役）

2. 具体的な検討手法及び手順

観光戦略会議の主題は、観光を切り口とした「地域づくり」のための新たな北見市の観光戦略を提示することですが、事前に事務局側からは実質4回の会議で「提言書」をまとめてほしいとの要請があり、焦点を絞った議論を進めることが必要となりました。

検討の視点として、今、北見市は何を進めるべきかという個別・具体の短期的戦略の議論も必要ですが、合併後の新たな北見市が目指すべき方向、つまり中・長期的な視点に立った戦略の検討も更に重要であるとの認識に立ち、「短期的な戦略」「中・長期的な戦略」の両面から検討を進めることとしました。

具体的な検討にあたっては、時間的な制約もあったことから、検討テーマを以下の4つに絞り、集中的な議論を進めました。

- (1) 地域資源の活用
- (2) 地域の体制づくり・人材育成
- (3) 広域連携のあり方・仕組みづくり
- (4) 効果的なマーケティング戦略

特に、テーマに沿った地域の実情を把握するため、オブザーバー参加の各地区の観光協会や漁協、文化団体の代表者の意見も伺いながら議論を深めてきました。

3. 提言書の取りまとめにあたって

今回の取り組みにあたっては、限られた時間の中で、各テーマの掘り下げた議論という観点からは不十分な点多々あったと考えます。しかしながら、4つのテーマに沿った一定程度の議論が済み、具体的な観光振興施策の提言とともに、合併により新たな枠組みとなった北見市が目指すべき中・長期的な方向性についても言及することができました。

21世紀は、大観光時代・大交流時代といわれ、今後は、交流人口の増大を目的とした地域間競争がますます激しくなることが予想されています。北見市が今後も光り輝くためには、観光を地域づくり、まちづくりの視点から幅広く捉え直し、民産官学の連携の中で、将来を展望した「地域の総合力」を高めていくことが必要です。

そうした意味で、この提言書は、観光に携わる方ばかりでなく、すべての市民に向けての問題提起、メッセージとなるようにとの思いでまとめました。

Ⅱ. 北見観光への提言

合併後の北見市を光り輝かせる「9つの提言」

- 提言1 豊富な食材を活用した食文化のブランド化を進めよう
- 提言2 ハッカの歴史と文化を再認識しよう
- 提言3 地域全体を博物館にしよう(北見市エコミュージアム構想)
- 提言4 ふるさと銀河線跡地を有効に活用しよう(Road to Galaxy)
- 提言5 温泉活用の滞在型観光地づくりを目指そう(ヘルシーランド構想)
- 提言6 観光を進める地域体制づくりを急ごう
- 提言7 地域再発見！北見のファンを増やそう ～北見市観光検定の実施～
- 提言8 シーニックバイウェイで地域間のネットワーク化を図ろう
- 提言9 市民合意の地域アイデンティティを確立しよう

1. 豊富な地域資源を有効に活用すること

提言1 豊富な食材を活用した食文化のブランド化を進めよう

北見市、特に中心部の北見自治区は、ビジネス客を中心とした「都市型観光」に強みを発揮していることは、各種統計資料からも明らかです。

北見市は、合併によりたくさんの「宝」を得ましたが、その一つは、豊富な海の幸、山の幸などの食材であり、これらを活かした「食のまち・北見」をアピールすることで、これまでの都市型観光を更に充実させることが可能となります。特に、安くて美味しいと評判の焼肉や鮭、地ビール、塩やきそばなどを上手に活用し、これらの「食」にとことんこだわった、多様な食文化のブランド化を進めることが、これからの北見観光を飛躍させる大きなテーマと考えます。

●焼肉のまち「北見」を全国に発信

北見市には60店にも及ぶ焼肉店があり、全国有数の焼肉のまちです。毎年、2月には屋外での焼肉パーティー「北見厳寒の焼肉まつり」が開催されるなど、インパクトも十分で、今後は、なぜ北見で焼肉なのか、美味しさと安さの秘密、安全性を含めたストーリーを構築し、全国に北見の焼肉文化を発信することが必要です。

●オクトーバーフェスト(全国地ビールまつり)を食と音楽を絡め全国イベントに

地ビール発祥のまちとして、北見のオクトーバーフェストは大切に守り育てていくべきイベントです。特に、全国地ビールまつりとして、地元でしっかりと根付いた今、これを観光の目玉としてスケールアップを図り、道内外から誘客可能なイベントに発展させていきます。

将来的には、オホーツクの「食のフェスティバル」として、地ビールとともに豊富な食材と音楽を楽しめる一大イベントを目指し、北見でしか体験することができない、オンリーワンのイベントに育てる意識が大切です。

提言2 ハッカの歴史と文化を再認識しよう

昭和初期に世界生産の7割を占めた「ハッカ」は、北見市をはじめ、この地域の今日の経済の礎をなした代表的な産業であり、現在もハッカに関する施設や機械機器が数多く保存されています。北見といえばハッカという爽やかなイメージが定着していますが、地域に「ハッカの香り」がしないことはとても残念なことです。

学び、癒し、体験という観光のスタイルが注目される中、ハッカの歴史や文化を市民が再認識し活用を図ることで、全国に通用する一級品の観光資源に育つ可能性があります。また、去年は、これらハッカ関連の施設や機械機器が、経済産業省の「近代化産業遺産」に選定されましたが、散在する各遺産のネットワーク化とハッカの歴史と文化に関するストーリーづけを行い、これを北見の産業観光に生かす絶好のチャンスです。

歴史的にも産業的にも貴重な地域の宝であるハッカを、地域のアイデンティティーとして、大いに活用、PRしていくことが大切です。

提言3 地域全体を博物館にしよう(北見市エコミュージアム構想)

地域の自然環境や歴史文化を体験し学ぶエコツーリズムが、子どもたちやシニア世代をターゲットとして大きなマーケットになっています。

北見市は合併により全道一の広いまちとなりましたが、それぞれの自治区に目を向けると、エコツーリズムの素材として、北見・端野地区の田園空間博物館や農村景観をはじめ、留辺蘂の森林鉄道跡や巨樹の森、常呂の遺跡など、歴史的な価値の高い地域資源も多く、今後は、その効果的な「売り方」が重要になってきます。

残念ながら、合併後間もないことから、その一つひとつがネットワークされておらず、旅行者から見ると、ばらばらでわかりづらいものになっています。今後、こうした貴重な地域資源をネットワーク化しつつ、その機能を高め、地域全体を博物館として売り込む「北見市エコミュージアム構想」を具現化することを提言します。

提言4 ふるさと銀河線跡地を有効に活用しよう(Road to Galaxy)

北見圏と十勝圏を結ぶ唯一の鉄路であった「ふるさと銀河線」が平成18年4月に廃線となり、北見―池田間140キロメートルにも及び軌道用地の利活用方法が各自治体で検討されています。現在、北見市では、既に踏み切りも撤去され安全上の問題もあることから、一体的な利用ではなく、ゾーン別に整備する方針を固めています。

現段階では、この提言が跡地利用計画の策定に反映が可能であるかどうかは不明ではありますが、地域の歴史そのものである「ふるさと銀河線」を地域の宝として、観光面からもその利活用が検討されるべきであります。具体的な活用方法としては、軌道跡地という形状を利用した多目的パスの整備と駅舎を観光の基点とした交流拠点にすることが考えられます。

多目的パスとしては、夏季はフットパス、サイクリング、トロッコなどでの利用、冬季はスノーシュー、かんじき、歩くスキー、馬橇など、この地ならではの特色あふれる利用が可能であり、駅舎は「情報館」「地域交流館」への転用も想定されます。いずれにしても、沿線自治体それぞれが利活用の方法を探っている段階ではありますが、140キロの歴史遺産を広域観光に生かすという視点で、今後も各自治体が相互に連携し、多角的な検討を進める必要があります。

提言5 温泉活用の滞在型観光地づくりを目指そう(ヘルシーランド構想)

健康や癒しといったキーワードは、観光の分野でも注目を集め、自然豊かな地を訪れ、心身ともに癒され健康を回復、保持するヘルスツーリズムの需要が高まっています。

合併後の北見市は、開湯100年以上の歴史を誇る温根湯温泉をはじめ、各自治体ごとに特色あふれる温泉を有しています。これら温泉を核に、豊かな自然をフィールドとして、自然治癒力や免疫力を高める体内環境の改善をテーマとした「ヘルシーランド構想」を提案します。構想の具体化に向けては、ホテル(旅館)、保健医療関係者、体験観光事業者、行政、観光協会など広範囲の関係者の協力が必要ですが、心と体の健康づくりをテーマとした取り組みは、これまでの通過型の観光地から滞在型の観光地への転換を図る起爆剤となり、北見観光の可能性を大きく広げることにつながります。

2. 観光に取り組む地域の体制を早期に確立すること

提言6 観光を進める地域体制づくりを急ごう

●観光協会の合併(又は強力な連携)

観光振興を柱とした地域づくりの重要性が広く認識されるようになった今、外から人を呼び込み、地域の活性化を図るためには、官民の連携による、地域の総合力を発揮できる体制づくりが求められています。

北見市は、合併後、旧市町に自治区を設置し、特色あふれる地域づくりと相互の連携が図られていますが、残念ながら観光協会はそれぞれに独立したまま活動を継続し、観光面での総合力を十分に発揮できていません。特に、情報発信やプロモーションの場面を想定したときに、北見のもつイメージが分散化され、厚みのないものとなってしまうことが危惧されます。

短期的には、観光協会の合併、統合に向けた動きを加速させることが重要ですが、将来的には、観光・物産・コンベンションなどの各団体の統合を視野に入れ、北見への誘客に向けた官民連合体としての「北見ビジターズビューロー」、「北見ツーリズムオーソリティー」などといった形への統合再編も検討する必要があります。いずれにしても、形だけの合併、統合ではなく、4つの観光協会が一つにまとまり、新北見の観光を盛り上げる体制づくりを早期に進める必要があります。

●観光行政組織の強化再編

観光振興の目的は、交流人口の拡大による持続可能な地域経済活力の維持、発展にあります。今日、産業としての観光は、地域経済への波及効果も高く、観光行政の取り組み如何による、都市間・地域間格差が拡大しています。特に、観光を担う民間組織の力が弱い地方の中小都市では、観光行政が一定程度まで、地域の観光推進体制を牽引することが求められます。

北見市の観光行政は、農林水産商工部という産業全般を網羅した組織体制の中で進められていますが、今日の観光の意義や動向を考えれば、多くの組織分野とリンクした動きが必要となり、地域創造を主眼とした全庁的な総合調整可能な組織への改編や、観光に特化した専門職を配置するなど、新たな発想で北見の観光行政を創っていただきたいと思います。

提言7 地域再発見！北見のファンを増やそう ～北見市観光検定の実施～

4つの市町が合併し新北見市が誕生しましたが、各自治区にはそれぞれ固有の自然や歴史、文化伝統があり、地域住民はお互いの地域の魅力を十分に知ることが大切です。地域間の観光ツアーや誰もが気軽に参加できる駅伝ウォークを実施し、お互いの魅力や素晴らしさを知ること、新たな観光資源の掘り起こしや地域の情報発信力、新市の一体感も高まります。

今、全国各地で「ご当地検定」がブームになっていますが、合併後の市民相互の連帯感醸成、新たな北見のファンづくりを目的として「北見市観光検定」の実施も有効だと考えます。検定のためのテキストづくりに観光関係者や地域住民を巻き込むことで、観光面での市民の草の根運動的な広がりも期待できますし、市民の観光ホスピタリティ向上にもつながります。地域の観光を支えるのは、一人ひとりの市民です。将来的には、こうした市民が観光ボランティアガイドなどとしての活躍も期待されることから、長期的な視点に立った取り組みの一つとして実施すべきです。

3. オホーツク圏の中核都市として、広域連携の先導役を果たすこと

提言8 シーニックバイウェイで地域間のネットワーク化を図ろう

北海道の雄大な自然の中をドライブする、個人型や家族型の旅行が人気となっています。シーニックバイウェイは、景観(Scene)の形容詞 Scenic と、わき道・より道を意味する Byway を組み合わせた言葉で、地域と行政が連携し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域や美しい景観づくりを目指す取り組みです。現在、北海道では6つのルートが選定され、魅力ある観光空間づくりや活力ある地域づくりに貢献しています。

北見市周辺には、地域住民が気づいていない素晴らしいルートがたくさんあり、観光での広域連携が重要な課題となっている今、近隣市町村と連携したシーニックバイウェイへの参画は、北見観光のプレゼンスを示す絶好の機会でもあります。特に、この取り組みは、行政と地域住民による地域づくりや観光での広域連携のモデル事業にもなり得るもので、ルート選定までの官

民の様々な取り組みが、地域人材の育成、観光資源の掘り起こし、ホスピタリティ意識の向上などに相乗的な効果を発揮することが期待されます。

具体的なルートとしては、以下の3ルートが想定されます。

- ①北見路110キロライン（石北峠－温根湯－北見－常呂）
- ②旧ふるさと銀河線ライン（北見－置戸－陸別－池田）
- ③オホーツク街道ライン（北見－常呂－サロマ湖－紋別）

4. わがまちを知り、効果的なマーケティング戦略を構築すること

提言9 市民合意の地域アイデンティティを確立しよう

観光戦略会議の4番目の検討テーマは、「効果的なマーケティング戦略」についてでありました。北見の観光が誰をターゲットに、どんな資源をどのように活かし、どうプロモーションしていくのかという戦略を構築することはたいへん重要です。

しかしながら、北見市の現状を見たときに、観光戦略を検討する前段に、地域住民自らが新北見市のアイデンティティを整理することが急務であるとの意見が大勢を占めました。これは、市町合併を進めたどの市町村にもあてはまることで、新北見市にはどんな強みや弱みがあり、どのような顔でどのような将来展望を描くのか、地域の共通認識をつくることが大切です。地域住民が自らの手で地域の魅力を探り、それを高め、発信することで、北見観光の未来が開け、地域が輝きを増します。

Ⅲ. 提言の実現に向けて

北見観光戦略会議は、昨年7月から、これまで4回の会議を重ね、その後、最後のまとめとなる「北見観光シンポジウム」を開催して、前記の提言をとりまとめました。会議の中では、9つの提言以外にも、各委員それぞれの専門の立場から、多くの意見、提案をさせていただきました。中には、北見市に対する手厳しい注文もありましたが、このことは、北見市が観光を基軸とした地域づくりを進めていくうえで、まだまだやるべきことが残されているということを示したものであると言えます。

また、合併後の北見市を概観した時に、市民の皆さんが気づいていない、見過ごされた地域の宝も数多く残されおり、地域の取り組みにおいては、まだまだ物足りなさを感じましたが、将来に向けた発展の可能性を秘めたまちだということもわかりました。

ご承知のとおり、今、わが国社会は、私たちが経験したことのない「人口減少社会」に突入しています。こうした社会環境の中で、定住人口の増加が見込めない多くの地方都市は、「観光」を幅広く捉えた交流人口を増やす様々な取り組みを進めています。今日、多くの地域が観光を地域振興の大きな柱に位置付けているのは、「人の訪れる地域は発展し、人の訪れない地域はますます衰退する」ということが強く認識されてきたからでもあります。

合併という大事業を終えた今、北見市がオホーツク圏の中核都市として、どのような未来を描いていくのか、そして、観光を基軸とした「地域づくり」をどのように進めていくのか、住民レベルでの議論が必要です。

私たちが示した9つの提言は、まだまだ検討、議論の余地を残しているものもあります。この提言書が、多くの市民や関係者の目にとまり、活力あふれる北見市の「地域づくり」に向けた議論の材料となることを心から期待しています。

IV. 資料編

1. 観光戦略会議の開催経過

●第1回会議

日 時：平成19年7月9日(月) 13:30～16:00

会 場：ホテル黒部 富士の間

出席者：石森座長・大西委員・高橋委員・林委員

- 【議事次第】
- (1)主催者挨拶
 - (2)委嘱状の交付
 - (3)委員紹介
 - (4)オブザーバー・事務局紹介
 - (5)座長の選出
 - (6)会議の運営方針について
 - (7)会議の役割と議論の進め方について
 - (8)北見地域における観光の現状について

●第2回会議

日 時：平成19年9月5日(水) 13:30～16:00

会 場：ホテル黒部 富士の間

出席者：石森座長・高橋委員・林委員・加藤委員

- 【議事次第】
- (1)具体的な観光戦略の検討手法及び手順について
 - (2)北見市の観光戦略について
 テーマ「地域の体制づくり・人材育成」
 テーマ「広域連携のあり方・仕組みづくり」
 - (3)その他

●第3回会議

日 時：平成19年11月8日(木) 15:00～17:20

会 場：北見市議会第2委員会室

出席者：石森座長・大西委員・高橋委員・林委員

- 【議事次第】
- (1)北見市の観光戦略について
 テーマ「地域資源の活用」
 テーマ「効果的なマーケティング戦略」
 - (2)今後の議論の進め方について
 - (3)その他

●第4回会議

日 時：平成20年1月17日(木) 15:00～17:30

会 場：ホテル黒部 大雪の間

出席者：石森座長・大西委員・高橋委員・林委員

- 【議事次第】 (1)北見市の観光戦略について
・各委員からの提言発表、意見交換
(2)北見観光シンポジウム(仮称)の開催内容について
(3)今後の戦略会議の進め方について
(4)その他

◆北見観光シンポジウム

日 時：平成20年2月23日(土) 15:00～17:40

会 場：北見芸術文化ホール 中ホール

テーマ：新たな地域づくりへの挑戦 ～北見の新たな扉を開く観光の力～

参加者：240人

内 容：①基調講演

演 題 観光立国時代における地域づくりの未来
ー観光が北見の未来を拓くー
講 師 石森 秀三 氏

②パネルディスカッション

テーマ 北見の魅力と可能性を考える
ー合併後の北見の観光ビジョンー

コーディネーター 石森 秀三 氏(戦略会議座長)

パネリスト 大西 雅之 氏(戦略会議委員)

高橋 威男 氏(戦略会議委員)

林 美香子 氏(戦略会議委員)

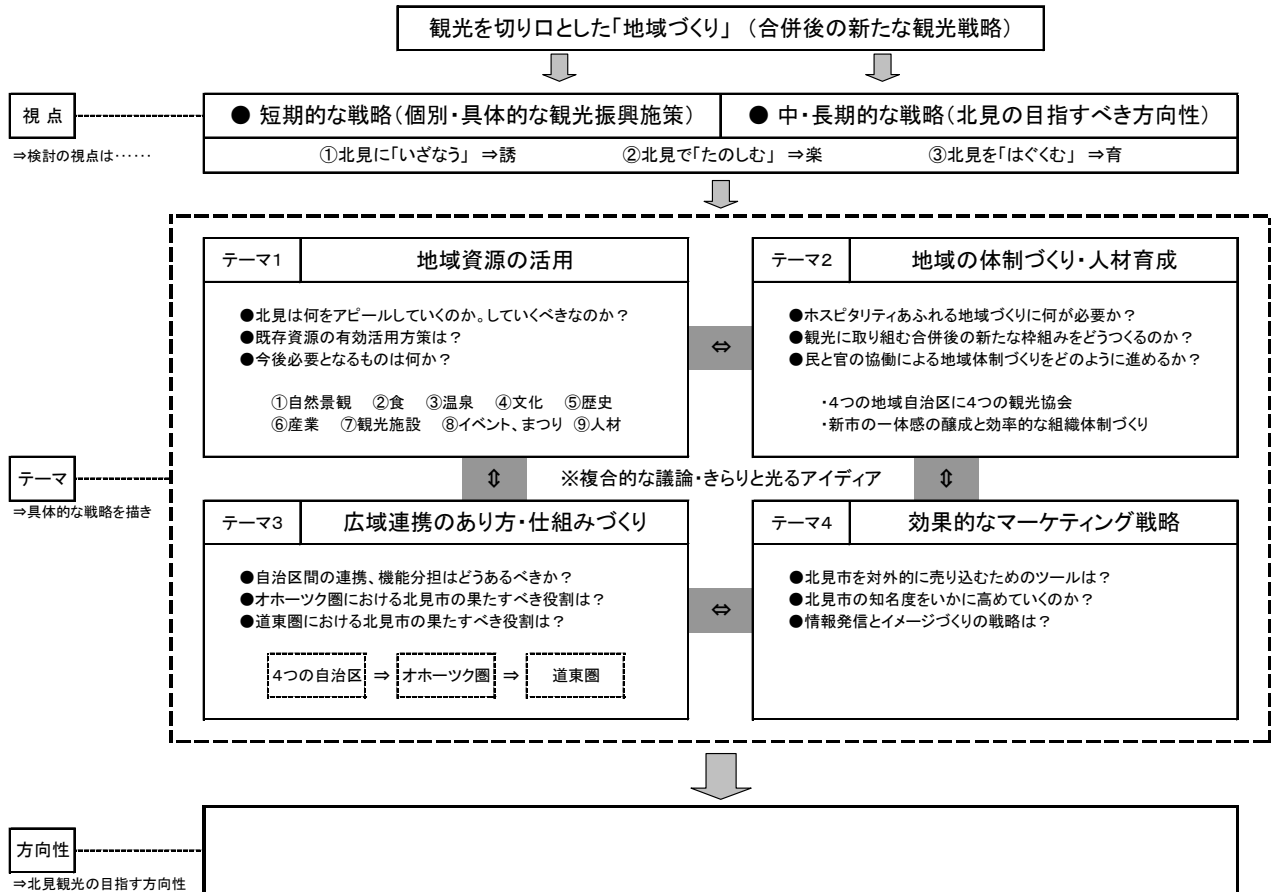
高木 豊 氏(香り彩るまちづくり推進機構会長)

古田亜由美 氏(オホーツク北見塩やきそば推進協議会)

③質疑応答

2. 観光戦略会議における検討手法及び手順

北見市の具体的な観光戦略を構築するにあたっては、短期的な視点と中・長期的な視点の双方から、以下に示す4つのテーマに絞り検討を進めました。



3. 会議で出された意見、提言の概要

テーマ1 地域資源の活用

(短期的な戦略の視点から)

- ・自然景観に対する地元の認識が低い。官民の連携でこれらを生かすシーニックバイウェイへ参画すべき。
- ・ふるさと会などを巻き込んだ、新北見市を見てもらうツアーなどを企画してはどうか。
- ・花観光が注目される中、周辺と連携しガーデンアイランド北海道2008への参画を。

- ・かつて世界の7割の生産量を誇った「ハッカ」を更に活用し、イメージづくりをすべき。
- ・歴史的な価値の高い資源も多く、北見市エコミュージアムとして、地域の博物館的なもののネットワークづくりを進めてはどうか。(北見はばらばらでわかりづらい。個々の資源をつなぎアピールすることが必要)
- ・外に目を向ける前に、地元の人同士がそれぞれの自治区の宝を再認識できる仕組みをつくるべき。
- ・廃線となった「ふるさと銀河線」は、まさに地域の歴史そのものであり、しっかりと認識すべき。
- ・地域のアイデンティティーとして「ハッカ」を売るなら、活用方法に工夫が必要。(地域で香りがしない)
- ・健康や美容が注目を集める中で、シソの効用は実証されており、端野のシソの取り組みを大切にしてほしい。
- ・留辺蘂の森林鉄道跡、巨樹の森、エゾライチョウ、農村景観は見過ごされているが貴重な資源である。
- ・旧無加駅舎は保存状態が悪い。建物を後世に引き継ぐ仕組みづくりを。
- ・常呂自治区の遺跡関連資源は、ニューツーリズムの枠組みに入れ、人の交流といった観点でも活用を図るべき。
- ・亜寒帯の気候特性による貴重な自然現象が見過ごされている。(常呂の流水やサロマ湖の夕陽、サンピラーなど)
- ・北見から遠軽方面の大森林は日本に世界に十分通用する。森を生かしたフットパスや常呂のサイクリングロードを健康の観点で見直してはどうか。
- ・オクトーバーフェストを食、音楽などと絡め、オホーツクの食のフェスとして全国、世界に発信できないか。
- ・100の宣伝より1つの映画ということも。広いエリアを生かし、北見を紹介する映画や音楽ができないか。
- ・合併後の地域が互いに理解を深めるため、ゲーム感覚で駅伝ウォークを実施してはどうか。(マーケティングの前に地域を見直すという仕掛けが必要ではないか)
- ・アマチュア参加型の音楽系のイベントは注目度も高く、観光に生かせるはず。

(中・長期的な戦略の視点から)

- ・農業、漁業、文化から見た観光とは何かといった新たな観点を言い、観光を組み立てるべき。(地域を表現する総合芸術としての観光という捉え方)
- ・冬の観光を見直す動きの中で、北見の冬のイベントは道東エリアと連携した再構築が必要。
- ・オホーツクの森が観光に生かされていない。(どのような活用方法を目指しているのかわからない)

- ・誘客には、全国、世界に発信できるものを一つ磨くという視点で進めてはどうか。
- ・財政難の折、既存の資源をどう活用し、どう生かすかといった方策を考えていくべき。

テーマ2 地域の体制づくり・人材育成

（短期的な戦略の視点から）

- ・観光推進体制の強化を図るうえで、事業者と行政のギャップ、スピード感の違いが課題である。
- ・観光ホスピタリティの意識の向上は、観光客と直接に接する方への研修が効果的。
- ・観光振興において、民と官の協働が重要で、今後4つの観光協会の統合が課題。
- ・行政における観光の専門職配置が必要。
- ・観光協会の連携が重要。できる限り早期に統合し、夫々の良さを前面に出した総合的な活動に力を入れるべき。
- ・ホスピタリティ向上は、市民の参画意識、すなわち住民が地域を守るために観光を推進するという意識が必要。
- ・行政でみると観光は一つの部署だけでは対応できなく、部署間の連携が必要。
- ・豊富な農産物や海産物を活用し、食とイベントをからめた観光が有効ではないか。
- ・観光に対する地域の金融機関の応援、協力があれば大きな広がりとなる。
- ・北見市は農林水産部で農業、林業、水産業、観光を所管しているが、観光は特化した部署でも良いのでは。
- ・他でも行っている観光ガイド検定は有効。
- ・観光協会がばらばらでは合併の効果も分散されてしまう。早期の連携、合併は必須。

（中・長期的な戦略の視点から）

- ・地域の人材として、一つのことを研究する専門家と、個々の分野をコーディネートする人材の両方が必要。
- ・観光施設等ではお客の立場に立った配慮が必要で、人材育成には細かい教育が必要になる。
- ・市の観光行政を「地域創造部」とし、農業、林業、水産業も観光とリンクさせ、新しい発想で北見を作るべき。

テーマ3 広域連携のあり方・仕組みづくり

(短期的な戦略の視点から)

- ・各自治区毎の駅前などに観光案内看板を立て、地域住民がお互いを知ることが有効ではないか。
- ・北見市はオホーツク圏の中核都市でありながら、観光のプレゼンスはこれまであまりなかった。
- ・北見はコンベンションの誘致なども多く魅力がある。地域と連携し、スポーツ合宿の誘致等も積極的に。

(中・長期的な戦略の視点から)

- ・北見は観光地？宿泊地？コンベンションなどで交流人口を増やす？その目指し方が重要。
- ・オホーツクの中核都市としての位置付けを踏まえ、広域での北見の観光の位置付けを検討する必要がある。
- ・観光宣伝、誘客には点としてではなく、オホーツク全体、面としてのイメージ強化が必要で連携が求められる。
- ・全道的な課題である「観光ゴミ」の問題にも広域連携で積極的な対応を。

テーマ4 効果的なマーケティング戦略

(短期的な戦略の視点から)

- ・情報発信も重要だが、観光客と受入れ側のミスマッチを防ぐためには受信能力を磨くべき。
- ・北見の魅力が認知されていない。情報発信やイメージづくり等、認知させる施策が必要。
- ・HPだけでなく、観光協会や関係者が、メールニュースなどで情報が外に広がる仕掛けを考えてはどうか。
- ・HPに観光目安箱を置き、様々なアイデアや意見を吸い上げる仕組みを考えてはどうか。
- ・外客誘致のためには、市長等のトップセールスが必要。
- ・マーケティング戦略を考えるまえに、その主体を誰とするかといった体制面の議論が先ではないか。
- ・北見の潜在力を生かすうえでは、シニア世代を対象としたヘルスツーリズムや遺産観光などが有望。
- ・売るものの魅力が高くなければ相手を動かせない。売るものを一つに絞り、どこまで磨けるかが重要で、エネルギー分散では、どれもエリアレベルで終わってしまう危険性がある。

(中・長期的な戦略の視点から)

- ・外国人観光客の受け入れは、安直に推進を図るのではなく、周到な見通しと戦略をもって進めるべき。
- ・北見でも国際的な観光振興策は必要だが、その優先順位を判断すべき。
- ・どの位、誰に来てほしいのか具体的な目標をもち、それを市民にわかりやすく提示して共に向かうことが必要。
- ・ディスティネーションマネジメント、ディスティネーションマーケティングが重要。
- ・マーケティングには、地域をどのようにマネジメントするかという観点と、発地に対してどうアプローチするかという観点の2つを考えるべき。
- ・発地に対してのマーケティングは、お客様が何を求め、考えているのかをリサーチすることが大事で、ターゲット層をどこにするかの整理が必要。
- ・ディスティネーションマーケティングを考えたときに、北見の資源から何を抽出し、どうネットワーク化し、コミットしていくのが重要。
- ・戦略的な観光はターゲットを明確化し、資源をどう活かすかを考えるべきで、ターゲットの選定は特に重要。

4. 北見市主要施設の概要及び入込み客数の推移

(人)

施設	施設概要	16年度	17年度	18年度	19年度
 <p>北網園北見文化センター</p>	<p>博物、美術、科学、視聴覚センターと4つの機能を複合した施設。科学館にはプラネタリウムや天体観測室・体験学習室などが整備されており、博物館には屯田兵屋の展示をはじめ太古から現在に至る自然・文化が体系的に紹介されている。</p>	49,794	47,748	44,192	50,143
 <p>北見ハッカ記念館</p>	<p>戦前世界のハッカの約7割を生産していた北見ハッカ歴史を伝える、旧ホクレン薄荷工場の事務所を保存した資料館。乾燥ハッカの標本や世界中のハッカ製品など様々な資料が展示されている。</p>	19,396	19,013	19,384	20,382
 <p>ピアソン記念館</p>	<p>北見地方でキリスト教伝道や学校教育の振興につくした、アメリカ人宣教師、ピアソン夫妻が生活した洋館を復元し記念館として公開。設計者は近江兄弟社の創設者としても知られるW.M.ヴォーリス。北海道遺産登録。</p>	6,915	7,521	6,315	7,381
 <p>仁頃はっか公園</p>	<p>4haの園内には、北見ハッカ黄金期のはっか商・五十嵐弥一氏の私邸「ハッカ御殿」があり、約54種類のハッカが植えられている。また、7月下旬～8月下旬の間は「エゾミソハギ」の群生が満開となる。</p>	19,958	19,545	15,667	16,090
 <p>富里森林公園</p>	<p>北見市内から車で30分、北見市で最も高い山である標高829mの仁頃山の麓に位置し、農業用ダムの富里湖と森林に囲まれた73平方キロメートルの広大な森林公園。キャンプ、ハイキング、森林浴、バードウォッチング、釣りなどを楽しむことができる。</p>	16,926	16,931	15,040	16,560
 <p>フラワーパラダイス</p>	<p>東京ドーム6個分の面積を有す、東洋一のフラワーパーク。季節の花々が咲き誇り、四季を通して楽しめる花園。</p>	18,217	19,119	19,318	20,107
 <p>緑のセンター</p>	<p>北見市の緑の現状の紹介、温帯・亜熱帯植物を中心にヤシ類を骨格として、バナナ・コーヒーの木をはじめ、ハイビスカスなど熱帯系花木類も植栽している。</p>	13,545	13,451	11,177	11,972

(人)

施設	施設概要	16年度	17年度	18年度	19年度
オホーツク木のプラザ 	オホーツク圏の豊富な森林資源を背景とする林業・林産業の振興や木製品の技術開発等を担う施設。「木育事業」への取り組みとして、展示を「触れて遊ぶ」内容に今年度リニューアルした。	32,109	36,126	40,705	80,885
北見ファミリーランド 	東北北海道には数少ない遊園地で、13種類の遊具があり、市民を始め北見市近郊に住む人々で賑わう。	422,776	417,279	439,977	298,074
香りゃんせ公園 	ハッカの歴史に根ざした「花の香りによるまちづくり」を目指す市民ボランティアによりつくられた公園。市内を流れる常呂川河川敷にある10haの市民のコミュニティガーデンでは様々なハーブが咲き乱れ、噴水施設も設置され休日には多くの人々で賑わう。	-	-	-	-
モイワスポーツワールド 	芝グラウンドやテニスコートの他に、150名が宿泊可能なコテージ、レストランや研修室を備えたセンターハウスがあるスポーツ施設。夏場の涼しい気候を生かし、多くのスポーツチームが合宿に訪れる。	7,646	6,589	6,103	6,763
屯田兵人形 	明治30・31年、北光社移民団と時を同じくして北見に開拓に入った「屯田(とんでん)兵」。彼らの偉業を伝える軍服姿の屯田兵人形75体を保存し、それは開拓当時の風情を感じさせる。	-	-	-	-
若松市民スキー場 	北見市若松地区にある市民スキー場。ナイター設備も整っている。	414,646	337,528	339,053	396,682
端野メビウス 	夏はゴルフ、冬はスキー場として、宿泊施設も有する唯一のリゾート施設。スキー場はクワッドリフト、ナイター設備も整っている。	69,400	68,700	68,100	54,600

(人)

施設	施設概要	16年度	17年度	18年度	19年度
のんたの湯 	端野町のふるさと100年を記念してつくられた温泉で、木質を生かした上品な建物が特徴。開放感あふれる露天風呂。自然探求を楽しんだ後や、スキー・ゴルフ・パークゴルフの疲れを癒す温泉施設。	211,209	208,197	194,452	179,721
屯田の杜公園 	野球場、テニスコートをはじめ、多目的グラウンドやゲートボール場等の運動施設があり、水と緑の公園としてアスレチック公園や夏になると家族連れなどが涼を求めて集まるウォーターパークがある総合公園。	-	-	-	-
オホーツクの森 	面積約4,000haの天然林を利用した自然公園。豊かな森林と眺望で知られており、森林浴には最適。また、標高386メートルの展望台からは、知床連山や斜里岳、網走湖などを一望することができる。	-	-	-	-
ワッカネイチャーセンター 	ワッカネイチャーセンターは、ワッカ原生花園を散策の拠点となるセンターハウス。案内所や休憩所、売店もあり、自転車の貸出しや、観光馬車での原生花園見学などでもできる。	67,523	59,563	58,168	59,142
ところ常南ビーチ 	オホーツク海にある北見唯一の海水浴場。北海道の短い夏に天気の良い日には家族連れやグループで賑わう。遊泳期間は約2週間と短い。	10,648	6,753	9,088	2,567
カーリングホール 	はまなす国体のカーリング競技場として、昭和63年に建設された、日本で最初の屋内専用カーリングホール。幅約5メートル、長さ約45メートルのレーンを5つ持つ専用ホールは、土日祝日にはさまざまな大会が行なわれる。	13,630	13,638	12,637	13,731
埋蔵文化財センターどきどき 	ところ埋蔵文化財センター「どきどき」は、常呂町内の各遺跡から出土した土器、石器など遺物の収蔵施設で、復元作業の見学もできる。また、展示コーナーには樺太アイヌの貴重な資料も展示されている。	2,533	2,624	3,421	4,547

(人)

施設	施設概要	16年度	17年度	18年度	19年度
遺跡の館 	竪穴住居をイメージして建てられた館内には、町内各遺跡から出土した各文化のさまざまな遺物、住居模型、遺構全体模型などを展示しており、常呂の古代文化を学習し、各種事業をととして古代の生活を体験することができる。	4,053	3,876	4,488	4,510
手工芸の館 	「常呂手工芸の館」は、「ところ流氷焼き」の製作・展示・販売を行なっている。指導員の指導により気軽に陶芸体験もできる。	3,134	2,879	2,995	3,311
常呂森林公園 	常呂の平野とオホーツク海、サロマ湖を見下ろす眺望の丘にある公園。バードウォッチングに最適な観察林や、バーベキューハウス、本格的な54ホールを備えたパークゴルフ場があり、隣接する百年記念塔は高さは30mあり森林公園のシンボルタワーとなっている。	28,638	28,609	26,638	27,030
おんねゆ温泉 	「北見地方の奥座敷」とも呼ばれ、団体旅行などの観光客を中心に湯治客などの利用も多く、歴史の浅い北海道の温泉地の中では、かなり老舗的な温泉地の1つともなっている。	201,967	215,889	199,063	187,433
道の駅「おんねゆ温泉」 	大雪観光圏と阿寒・網走・知床観光圏を結ぶ中継地点であり、周辺には歴史ある温泉街「温根湯温泉」や、シンボルタワーとなっている高さ20mのハト時計「果夢林」がある。	504,900	508,500	500,700	474,300
シンボルタワー果夢林 	道の駅「おんねゆ温泉」裏手にある、からくり人形と世界一のハト時計とが一体となった高さ20mのシンボルタワー。一時間ごとにメロディーを奏でながら時を告げるからくり人形はとともメルヘンチック。	-	-	-	-
果夢林の館 	地元の特産品を展示・販売する「果夢林ショップ」と、木製遊具を設置した「果夢林ワールド」、手軽に木工作を体験できる「クラフト体験工房」の3つの部屋で構成されている。	15,800	16,400	17,000	16,500

(人)

施設	施設概要	16年度	17年度	18年度	19年度
山の水族館 	北海道内に生息する約50種類の淡水魚を集め、その生態を観察できるようにした全国でも珍しいユニークな水族館。併設する温泉水族館では、巨大ナマズやウーパールーパーをはじめとする世界の珍しい熱帯魚も見ることができる。	26,649	22,329	24,070	22,941
北海道大分水点 	東大雪の三国山(標高1,541m)山頂付近の尾根には、太平洋、日本海、オホーツク海への水の流れを分ける「北海道大分水点」が存在する。	-	-	-	-
北きつね牧場 	常時80頭ほどのキタキツネが放し飼いにされ、遊歩道を散策しながら、愛らしい姿を間近に見られる。5～6月は生まれたばかりの子キツネに出会えることもある。	101,100	112,000	127,000	80,700
北海道きつね村 	大雪山系の広大な森林の中に世界中のキツネたちが放し飼いにされている観光牧場。他にもめずらしいミンクやトナカイなども見学できる。	168,700	213,400	235,300	119,300
つつじ公園 	おんねゆ温泉裏手にあるこの山には、北海道の天然記念物に指定されている7万株・28万本ものエゾムラサキツツジが咲く道内随一の群生地。開花期間中ロングランでおんねゆ温泉つつじまつりが開催される。	-	-	-	-

5. 北見のまつり・イベント

行事名 (回数)	内 容	期 間	場 所	入込数(人)	
おんねゆ温泉つつじ祭り (37回)	○バーベキューカーニバル ○歌謡ショー	5月上旬	・おんねゆ温泉つつじ公園	16	10,000
				17	10,000
				18	9,000
				19	8,000
オホーツク木のフェスティバル (23回)	○「木育」遊具体感広場 ○児童・生徒木工工作展他	5月中旬	・サンライフ北見 ・サンドーム北見 ・北見地域職業訓練センター ・工業技術センター	16	53,256
				17	63,702
				18	52,017
				19	42,814
でっかいどうオホーツクマーチ (21回)	○ウォーキング大会	6月中旬	・北見市 ・網走市	16	912
				17	861
				18	831
				19	879
サロマ湖100kmウルトラマラソン (23回)	○サロマ湖一周マラソン	6月中旬	湧別町～佐呂間町～北見市	16	2,476
				17	3,344
				18	3,104
				19	3,594
オホーツクサイクリング (27回)	○オホーツク海沿岸のサイクリング	7月中旬	雄武町～北見市～斜里町	16	1,005
				17	921
				18	869
				19	846
北見ぼんちまつり (55回)	○大綱引 ○舞踊パレード ○花火大会	7月中旬	・中心商店街 ・小公園	16	217,000
				17	228,000
				18	228,000
				19	213,000
香りゃんせフェスティバル (12回)	○ハーブウェディング ○ハーブ体験コーナー ○ハーブ苗販売	7月中旬	・香りゃんせフェスティバル	16	3,000
				17	3,000
				18	20,000
				19	2,500
おんねゆ温泉まつり (57回)	○神輿川渡御 ○花火	8月上旬	・温泉広場 ・無加川会場	16	3,000
				17	3,000
				18	3,000
				19	8,000
ところふるさとまつり (29回)	○花火大会 ○仮装盆踊り ○ビールパーティ	8月14日～15日	・交通ターミナル特設会場	16	4,000
				17	2,100
				18	1,900
				19	2,100
るべしべ夏まつり (41回)	○花火大会 ○YOSAKOIソーラン	8月14日～15日	・きごころ広場 ・無加川左岸	16	12,000
				17	12,000
				18	15,000
				19	18,200
太陽まつり (31回)	○ウオーターロデオ ○焼き肉パーティ ○キャラクターショー	8月中旬	・端野町公民館前メルヘン広場	16	10,000
				17	5,000
				18	7,000
				19	8,000
るべしべ巨樹の森コンサート (2回)	○森の中のコンサート	平成15年、 平成18年開催	・留辺蘂町松山巨樹の森	16	-
				17	-
				18	350
				19	-
たんのカレーライスマラソン (23回)	○カレーライスつくりとマラソン ○仮装コンテスト ○大食いコンテスト ○抽選会	9月中旬	・端野町屯田の社公園	16	750
				17	1,000
				18	1,000
				19	1,200
北見菊まつり (56回)	○菊花展 ○菊花コンクール ○菊人形展	10月中旬～ 11月上旬	・北見駅南多目的ホール	16	50,161
				17	53,164
				18	47,798
				19	47,284
北見オクトーバーフェスト (14回)	○全国地ビールまつり	10月中旬	・北見経済センター	16	3,416
				17	2,745
				18	2,179
				19	2,738
おんねゆ温泉郷雪物語 (8回)	○スノーシュートレッキング ○スノーモビルツアーフェスティバル	12月下旬～ 3月上旬	・根々山特設コース ・滝の湯スノーモビルランド特設コース	16	500
				17	500
				18	1,000
				19	1,000
スノーモビルランドinサロマ湖 (22回)	○スノーモビル ○パラセーリング	1月下旬～ 2月下旬	・サロマ湖特設会場	16	2,007
				17	1,767
				18	1,098
				19	1,436
北見厳寒の焼き肉まつり (10回)	○寒中の屋外焼き肉パーティ	2月上旬	・北見芸術文化ホール駐車場	16	1,500
				17	1,500
				18	1,400
				19	1,400
北見冬まつり (39回)	○北海道氷彫刻冬季北見大会 ○市民参加雪像	2月上旬	・北見駅南多目的ホール	16	56,000
				17	56,000
				18	54,000
				19	37,000

6. 観光客入込みの推移

●北見市の観光客入込数

(単位:千人)

	平成15年度				平成16年度				平成17年度				平成18年度				平成19年度			
	総計	道外	道内	宿泊延	総計	道外	道内	宿泊延	総計	道外	道内	宿泊延	総計	道外	道内	宿泊延	総計	道外	道内	宿泊延
北見	661.7	147.9	513.8	365.9	620.4	115.6	504.8	421.6	621.1	121.6	499.5	452.0	518.5	101.7	416.8	438.4	574.2	167.6	406.6	365.3
端野	71.7	15.7	56.0	18.0	69.4	10.7	58.7	14.8	105.3	66.4	38.9	101.0	68.1	10.7	57.4	12.1	54.6	3.7	50.9	7.4
常呂	246.9	119.8	127.1	75.2	224.6	82.2	142.4	77.7	215.5	64.1	151.4	77.2	182.1	41.6	140.5	76.0	178.6	53.8	124.8	68.5
留辺蘂	853.8	433.7	420.1	252.2	816.0	408.8	407.2	248.1	824.3	425.4	398.9	248.2	774.5	356.1	418.4	285.3	716.5	311.4	405.1	243.6
総計	1,834.1	717.1	1,117.0	711.3	1,730.4	617.3	1,113.1	762.2	1,766.2	677.5	1,088.7	878.4	1,543.2	510.1	1,033.1	811.8	1,523.9	536.5	987.4	684.8

(北海道網走支庁調べ)

7. コンベンション開催状況

●北見市におけるコンベンション開催状況

	15年度		16年度		17年度		18年度		19年度	
	開催数(件)	参加人数(人)	開催数(件)	参加人数(人)	開催数(件)	参加人数(人)	開催数(件)	参加人数(人)	開催数(件)	参加人数(人)
全国	10	16,330	8	2,520	5	6,150	14	8,170	11	8,145
全道	30	12,860	39	15,610	40	12,438	62	20,800	33	15,620
合計	40	29,190	47	18,130	45	18,588	76	28,970	44	23,765
経済波及効果額 (単位:百万円)	2,057		1,374		1,571		2,093		1,893	

(観光振興課調べ)

8. 主な宿泊施設

●北見市の主な宿泊施設数

	施設数	室数	収容人員
北見	34	2,218	3,284
端野	1	57	200
常呂	8	162	445
留辺蘂	9	575	2,407
総計	52	3,012	6,336

(観光振興課調べ)

9. 北見観光戦略会議委員名簿(敬称略・平成20年3月末現在)

■ 委 員

北海道大学 観光学高等研究センター長 大学院観光創造専攻長	石森 秀三
株式会社阿寒グランドホテル 代表取締役社長	大西 雅之
株式会社JTB北海道 代表取締役社長	高橋 威男
フリーキャスター・フードジャーナリスト	林 美香子
きたみらい農業協同組合 代表理事組合長	加藤 孝幸

■ オブザーバー

北見観光協会 会長	黒部 哲哉
端野町観光物産協会 会長	岩崎 新一
おんねゆ温泉観光協会 会長	大江 友広
常呂町観光協会 会長	佐藤 栄
オホーツク圏観光連盟 会長	桑島 繁行
常呂漁業協同組合 代表理事組合長	高桑 康文
北見文化連盟会計監査役	大場 稔康

■ 事 務 局

北見観光協会 事務局長	松村 憲章
北見観光協会 事務局次長	高橋 良造
北見市 理事	宮内 浩
北見市 農林水産商工部長	谷口 清
北見市 農林水産商工部 次長	柴田 幹仁
北見市 農林水産商工部 観光コンベンション課長	山田 孝雄
北見市 農林水産商工部 観光コンベンション課 係長	成田 潤一
北見市 農林水産商工部 観光コンベンション課 係長	三上 剛
北見市 端野総合支所 産業課長	戸田 茂喜
北見市 常呂総合支所 産業課長	秋保 敏宏
北見市 留辺蘂総合支所 産業課長	森 澄夫

10. 北見観光戦略会議設置要綱

(設置目的)

第1条 北見観光の一層の発展を目指し、今後の北見市の観光振興を効果的に推進するための各種施策の提言及び実施について助言する組織として「北見観光戦略会議」(以下、「戦略会議」と言う)を設置する。

(所掌事項)

第2条 戦略会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 観光振興を図るための有効な施策の提言。
- (2) 観光振興を図るための具体的事業に対する助言。
- (3) その他会議の目的を達成するために必要なこと。

(委員)

第3条 委員は、北見市と北見観光協会が委嘱することとし、別表に定めるものとする。

(組織)

第4条 戦略会議は、第3条の委員をもって構成する。

- 2 戦略会議に座長を置く。
- 3 座長は、委員の互選により選出する。
- 4 座長は、戦略会議を総理する。

(会議)

第5条 会議は、必要に応じ座長が招集し、主宰する。

- 2 座長は、必要と認めるとき、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 戦略会議の事務局は、北見市農林水産商工部及び北見観光協会が共同で担う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、戦略会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成19年7月9日から施行する。